

公開研究発表会(オンライン開催)

- 研究内容公開期間 令和2年12月23日(水)～令和3年2月28日(日)
- 質問受付期間 令和2年12月23日(水)～令和3年1月15日(金)
- 主な質問への回答掲載期間 令和3年2月28日(日)まで

※どなたでも東京都環境科学研究所のホームページ(<https://www.tokyokankyo.jp/kankyoken/>)からご覧いただけます!

※いただいた質問について主なものの解説を掲載します。

スマートフォンは
こちらからどうぞ
→



プログラム

多摩川水系で確認された外来付着珪藻ミズワタクチビルケイソウの繁茂実態

環境資源研究科

主任研究員

石井 裕一

河川や海域などでは多くの外来生物の生息が確認されており、生態系への悪影響が懸念されています。近年、全国各地の清澄な河川で、“ミズワタクチビルケイソウ”と呼ばれる外来付着珪藻の繁茂が報告されるようになりました。ここでは、多摩川水系におけるミズワタクチビルケイソウの分布と消長に関する調査結果を紹介します。



東京都におけるPM_{2.5}の現状と高濃度事例の発生要因

環境資源研究科

主任研究員

齊藤 伸治

2013年に北京でのPM_{2.5}高濃度が話題となりました。当時、東京都でも環境基準達成率は10%を下回っていましたが、現在の状況はどうでしょうか。本発表ではまず、東京都におけるPM_{2.5}濃度の現状を紹介します。次に、当研究所で継続的にPM_{2.5}を採取・分析した結果を用いて発生源を推定した結果や高濃度の事例が発生する原因について報告します。



都内及び国内都市域の水環境における生活由来化学物質の生態リスク評価

環境リスク研究科

主任研究員

西野 貴裕

医薬品など、ヒトの日常生活に由来する「生活由来化学物質」は、快適で便利な生活の維持に大いに役立っています。一方、これらの化学物質の多くは、使用后、河川など水環境中へ出ています。そこで、都内や国内都市域の水環境において、生活由来化学物質の実態を調査し、水生生物に対するリスク評価を進めてきましたので、その結果を報告します。

島しょ地域への水素蓄電の適用に向けた検討

次世代エネルギー研究科

主任研究員

小谷野 眞司

再生可能エネルギーの利用拡大は温暖化対策だけでなく、地産地消エネルギーの実現のためにも期待されています。東京都の島しょ地域は、離島としての特殊性から非常時におけるエネルギー確保の観点からも再エネ利用を拡大する意義があると考えられます。変動する太陽光発電の電力を貯蔵し、有効に利用する水素蓄電を島しょ地域に適用したシミュレーション結果について報告します。

その他

今回の発表以外の分野の調査研究を紹介したポスターも同時にホームページに掲載し、質問の受付と主な質問への回答掲載を行います。受付・掲載期間は研究発表の期間と同様です。

問い合わせ

公益財団法人東京都環境公社 東京都環境科学研究所 研究調整課 研究調整係 (広報担当)

TEL : 03-3699-1333

FAX : 03-3699-1345

E-mail : kanken@tokyokankyo.jp

HP : <https://www.tokyokankyo.jp/kankyoken/>

主催 : 東京都環境局

実施 : 公益財団法人 東京都環境公社
東京都環境科学研究所